

人はなぜ戦争をするのだろうか

小学六年 渡辺 愛梨

人はなぜ戦争をするのだろうか。戦争は、自分の意見だけが正しい
と思い、武力でねじ伏せようとしているだけだ。簡単に言えば、戦争
をしないためには、武力を使わずとも、相手を納得させる方法を見つ
ければいいのだ。

戦争のデメリットはたくさんある。勝敗問わず、膨大な資金、資源
を必要とし、たくさんの生命の死を招く。どの国だって、戦争はきつ
と最終手段だろう。なぜ人は話し合いで解決できないのだろう。より
良い話し合いを作っていくためには、何ができるのだろう。

戦争を仕掛ける国の多くは、きっと戦争は正義だと思っている。正
義だと思っているから、躊躇なく人を殺せる。それは、根本的な話し
合いの仕方が間違っているのではないかと私は考える。戦争を行う
理由と同じように、どちらかが「自分だけが正しい」と思っていれば、
話し合いは成り立たない。

仏教の教えにも、「喧嘩は正義と正義の戦い」という教えがある。
正義がぶつかり合うから喧嘩や戦争が起こる。一方が自分の間違い
や相手の考え方を認めたら喧嘩や戦争にはならない。互いに、必ず自

分が正しいと信じているから喧嘩や戦争が起きる。

それなら、喧嘩ではなく、「話し合い」をするためには何が必要なのだろうか。私は互いが意見を認め合った上で、良い点、悪い点を言い合えるような場であると考えてる。まずは相手の意見を信じてみる。互いに自分の意見ばかりを投げつけるのではない。双方の意見を整理し、より良い意見を作り上げる。これが、理想の話し合いではないだろうか。

ここで述べたことは、ある意味当たり前のことだ。そう考えると、今人類は、当たり前前ことができているのではないのだ。正しい話し合いができるようになれば、戦争は必要なくなるのではないだろうか。